



大阪大学 学際融合教育
Transdisciplinary Learning

学部・研究科等の 枠を超えた学び

大阪大学は「阪大スタイル」として、個性あふれる教育を展開しています。その一つが学際融合教育（学部・研究科等の枠を超えた教育）です。

これらのプログラムでは、自らの専門とは異なる知の領域に触れること、研究科・学部の異なる学生の協働による学びを経験することを重視しています。



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



大阪大学
全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences



大阪大学 学際融合教育
Transdisciplinary Learning

: 教員向けFAQ

大阪大学全学教育推進機構

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16

MAIL: zenkyo-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp

TEL: 06-6850-6214

Q

「学際融合教育」と「副専攻／高度副プログラム」と「知のジムナスティックス(高度教養プログラム)」の関係は？—多くの教員から

A: 大きく学際融合教育にふくまれます

副専攻／高度副プログラム:

専攻に関連する、あるいは専攻以外の個別分野の内容を、体系的に学ぶためのプログラムです。

テーマに沿って選ばれた科目から14(副専攻)／8(高度副)単位以上取得することで修了認定されます。

知のジムナスティックス:

他の専門分野の科目及び共通的に学ぶべき科目を履修することにより、社会人としてのつよさ・しなやかさ・バランス感覚を兼ね備えた知性を養うことを目的とした自由に選べる科目群です。

学際融合教育:

当機構が窓口になっている学部・研究科等の枠を超えた教育の総称です。阪大では上記二つのプログラムで制度化されており、いずれも右図の1~4に掲げる学際タイプを想定しています。

学際融合教育

副専攻／
高度副プログラム
＝体系的な学び知のジムナスティックス
(高度教養プログラム)
＝自由な科目選択

Q

「知のジムナスティックス(高度教養プログラム)」として、どのような科目の提供がよいのでしょうか？—提供教員から

A: 知識や能力を異なる専門分野の学生・院生に

大阪大学では、高度教養教育を「一定の専門知識を身につけ、(職業人あるいは研究者として)社会にまもなく出て行く学生に対して、専門教育以外に必要な知識や能力を与える」と定義しています(<http://hdl.handle.net/11094/13254>)。

学際的というとき、我々はさまざまな学際を思い浮かべます。研究科の専門科目であっても、「知のジムナスティックス」科目として広く提供することが可能です。これにより、学生のキャリア、希望、計画によって、その科目が持つ意義は多様に広がることでしょう。専門の最先端テーマであっても異なる専門分野の学生を受け入れ、異分野の学生同士の議論を促進するなどの工夫をして、学生にとって計り知れない履修経験をもたらしている成功例などもあります。

当機構では、提供していただく授業の内容についての御相談を随時受け付けております。お気軽に御相談ください。

Q

副専攻／高度副プログラムを提供する場合、受講者の多様性を考慮して連携部局の提供科目を検討すべきですか？—一部局担当者から

A: 連携部局の有無よりも間口の広さに配慮を

複数の部局が連携したプログラムは、受講する大学院生にとつて理想的といえます。

もちろん開講するプログラムの趣旨から、連携がなじまない場合もあることや、単一の部局であってもそこには多様な科目提供が可能になることもあります。連携部局のないプログラムの開講も差し支えありませんが、より多様な学生が履修できるような工夫をお願いします。プログラムの進捗状況や履修生の増減に応じて、連携部局を年度単位で広げていくことも可能です。

当機構では、副専攻／高度副プログラムを提供する部局担当者からの御相談を随時受け付けております。メール等でお気軽に御相談ください(zenkyo-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp)。

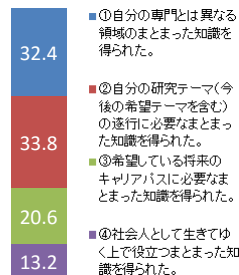
Q

指導学生が、副専攻/高度副プログラムの受講を希望しています。これが原因で、院生の研究がおろそかにならないでしょうか？—指導教員から

A: 学生の主体性を尊重しつつ適切な助言と履修指導をお願いします

受講者アンケートでは、申請時に期待した知識が習得できたと回答した学生(85.7%)のうち3割の学生が、「自分の研究テーマ(今後の希望テーマを含む)の遂行に必要なまともな知識を得られた」と回答しています。

受講者の多くは、自分の研究に関して意欲的な学生が多く、「自分の研究



2014年度実施受講者アンケート

分野を異分野の学生に分かりやすく説明することの重要性を感じた」という回答もみられました。異なる研究科の教員の授業科目を受講して、自分の研究の視野を広げることに役だったと感想を述べる学生もいます(詳細は、<http://trans-l.jp/interview>)。そのため、学生たちには、主専攻での学びに十分に力を注いだ上で、副専攻/高度副プログラムを学んでほしいと、考えています。

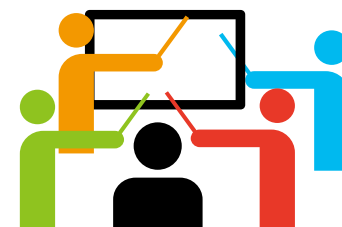
なお、当機構では、主専攻あつての副専攻/高度副プログラムというスタンスを堅持しており、副プロ等を履修する際には、指導教員との相談を推奨しています。

さまざまな〈学際〉のタイプがあります

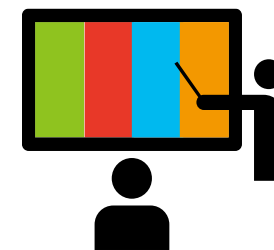
タイプ 1: 学生の学修履歴が学際的



タイプ 2: 教員が学際的



タイプ 3: 扱うテーマや内容が学際的



タイプ 4: 受講生が学際的



あなたの授業はどのタイプでしょうか？